

J-SEMS.TDS&TI体験版

株式会社メディア・アイ

2018年7月3日

I . TDS の実施

iPad ホーム画面で TDS のアイコンをタップします。



TDS アイコン

II . TDS の条件設定

TDS 設定アイコンをタップし、TDS 設定画面を 表示します。

1) 設定する条件

a) 感覚名設定

TDS で測定する感覚名を設定します。·

b) 時間設定

TDS を実施する計測時間と検出時間を設定します。·

c) 感覚の反応ボタンの配置設定

感覚の反応ボタンの配置方法を設定します。·

d) 試料・パネル・繰り返し数設定

試料、パネル、繰り返しの数を設定します。·

e) パネル表示

パネルを番号あるいは名前で表示かを設定をします。



2) TDS の各条件の設定

2-1) 感覚設定

感覚設定を選択すると、登録済みの感覚一覧が表示されます（初期状態では感覚が登録されていないため、表示されません）。

a) 感覚の登録と編集

画面右上の「編集」ボタンを押すと、編集画面になります。左上の「+」を押すと、 \ominus ボタンが画面に表示され、感覚を追加することができます。当該行 \ominus と \equiv を除く任意の位置を押すと感覚設定画面が表示されます。なお、登録できる感覚数の上限は、16 です。



感覚編集画面では、以下の項目を設定できます。·

①文字

反応ボタンに表示する感覚名です。·

②文字の色

反応ボタンに表示する文字の色を設定します。「変更」ボタンを選択し、任意の色を選択してください。

③ボタンの色

反応ボタン全体の色を設定します。「変更」ボタンを選択し、表示されるカラーピッカーから任意の色を選択し、カラーピッカー以外の場所を押して、色を確定します。「初期値」を選択すると、文字の色と、反応ボタンの色が初期化されます。

④ボタンの幅

反応ボタンの幅を設定します。

⑤ボタンの高さ

反応ボタンの高さを設定します。

⑥文字の大きさ

反応ボタンの文字の大きさを設定します。

⑦反応なし

「反応なしボタン」として設定する場合、ボタン設定画面で反応無しをONとします。

b) 感覚を削除

感覚設定画面右上の編集ボタンをタップすると、編集画面になります。

削除したい感覚の左側の⊖をタップすると、感覚の右側に「削除」ボタンが表示されます。削除ボタンをタップし、確認メッセージの「はい」をタップすると、当該感覚が削除されます。削除しないときは、いいえをタップしてください。

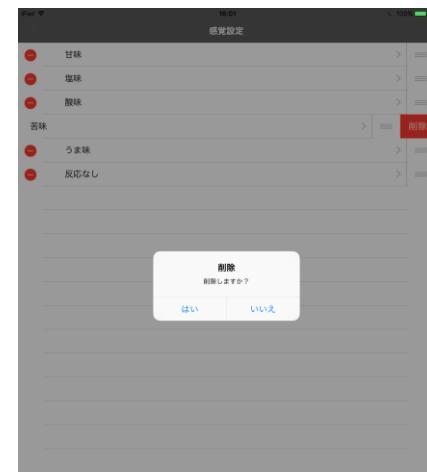
終了時には、右上の「完了」をタップして下さい。



c) 感覚を移動

画面右上の「編集」ボタンをタップすると、編集画面になります。

移動したい感覚の右側の「≡」を選択し、上下にドラッグすると、感覚の順番を変更できます。終了時には右上の「完了」をタップしてください。



2-2) 時間設定

試験をおこなう時間と検出時間（分解能）を設定します。分割の最大数は 600 です。

例えば、1 秒間 隔で検出を行う場合、最大 600 秒計測を行うことができます。

なお、検出回数が 10 回以上できる設定としてください。検出回数が 10 回以下の場合には設定できません。

2-3) ボタン配置

登録した感覚の反応ボタンの表示方法を設定します。

なお、ボタン配置やボタンの高さ、ボタンの幅の設定の仕方で、すべてのボタンを表示できないことや、ボタン同士が重なりあって表示されてしまうことがあります。

ボタン配置を「一列」にした場合、ボタンの高さを「高い」にすると、ボタンは12個までしか表示できません。ボタンの高さが「標準」「低い」場合は、16個まで重なりあわずに表示できます。ボタンの幅は関係ありません。

ボタン配置を「二列」にした場合、ボタンの高さや幅をどの条件にしても、16個まで重なりあわずに表示できます。

ボタン配置を「円形」にした場合、ボタンの幅が「狭い」時には16個まで重なりあわずに表示できますが、ボタンの幅が

「標準」「広い」時には、重なりあわずに表示できるのは8個までです。ボタンの高さは、関係ありません。



2-4) 試料・パネル・くり返し数を設定

試料の数、パネルの数、繰り返しの数を設定します。なお、検査開始後に、始めに設定した試料数、パネル数、繰り返し数を増やす必要が生じた場合は、この試料・パネル・くり返し設定画面に戻って、それらの数を増やし、同じ検査名で上書き保存してから、その検査名を読み込み、実施することにより可能です。



2-5) パネル表示

パネルの表示を番号か名前かを設定します。

番号の時は番号を、名前の時は名前をタップします。

名前がタップされるとパネル名設定が表示されます。

パネル名設定をタップすると名前設定画面が表示されます。画面の右上の編集をタップすると名前編集画面になります。



a) 名前の登録と編集

左上の「+」を押すと、 \ominus ボタンが画面に表示され、名前を追加することができます。

当該行 \ominus と \equiv を除く任意の位置をタップするとキーボード画面が表示され名前が入力できます。

b) 名前を削除

名前設定画面を表示して \ominus ボタンをタップすると、「削除」ボタンが表示されます。

削除ボタンをタップすると削除確認のメッセージが表示され



ます。「はい」をタップすると削除されます。「いいえ」は削除されません。

c) 名前を移動

移動したい名前の右側の「≡」を選択し、上下にドラックすると、名前の順番を変更できます。

終了時には右上の「完了」をタップしてください。

2. TDS 検査実施

TDS は以下の手順で実施します。

a) 試料・パネル・繰り返し選択



画面下の TDS 実行 を選択し、画面右上の試料・パネル・繰り返しを選択します。表示された画面で、これから実施する TDS の試料番号、パネル番号、繰り返し（何回目か）を選択します。



b) 検査実施

画面下の「開始」を選択し、TDS の検査を開始します。検査を中止する場合は、「中止」を、検査時間到達前に終了する場合は、「終了」を選択します。

ボタンの枠は、パネルがボタンを押すと太枠に変わり、検査の間、どのボタンが選択されているのかをパネル自身で確認することができます。

なお、続けて検査を行う場合には、b) 試料・パネル・繰り返し選択を行い、続いて c) 検査実施を行います。



c) 検査結果の保存

検査終了時に以下の画面が表示されます。「はい」を選択すると、iPAD に検査結果が保存されます。既に保存されているデータファイルとパネル番号（パネル名）、試料名、繰り返し番号が同一であるとデータファイルは上書きされます。「いいえ」を選択すると結果は保存されません。



3. 検査結果の表示

1) TDS 検査名の表示

ホーム下の「TDS 結果」のアイコンをタップしてください。

結果の検査名一覧が表示されます。

2) 結果の一覧表示

検査名をタップすると試料、パネル、繰り返し別の検査結果

が表示されます。

3) 詳細結果の表示

表示された結果一覧表の当該検査結果をタップする

と検査の結果をグラフで表示します。

縦に感覚名の種類が表示され、各グラフの横軸が時

間、太線がその感覚を選択した時間を表します。



II. TI の実施

iPad ホーム画面で TI のアイコンをタップします。



TI アイコン

1. TI の条件設定

TI 設定アイコンをタップして、TI 設定画面を表示します。

1) 設定する条件

a) 感覚名設定

TI で測定する感覚名を設定します。

b) 時間設定

TI を実施する計測時間と検出時間を設定します。

c) 試料・パネル・繰り返し数設定

試料とパネル・繰り返しお数を設定します。

d) パネル表示

パネルを番号あるいは名前で表示するかを設定します。

e) 入力バーの方向

入力バーが横か縦を設定します。



2) TI の各条件の設定

2-1) 感覚名設定

感覚名設定を選択すると、登録済みの感覚名一覧が表示されます（初期状態では感覚名が登録されていないため、表示されません）。



i) 感覚の登録と編集

画面右上の「編集」ボタンを押すと、編集画面になります。左上の「+」を押すと、検査する感覚名が追加されます。終了時には右上の「完了」を選択してください。



ii) 感覚名を削除

画面右上の「編集」ボタンを押すと、編集画面になります。削除したい感覚名の○をタップすると、感覚名の右側に「削除」が表示されます。これを他タップすると、感覚名が削除できます。終了時には右上の「完了」を選択してください。



iii) 感覚名を移動

画面右上の「編集」ボタンをタップすると、編集画面になります。移動したい感覚名の右側の「≡」を選択してドラッグすると、感覚名の順番を変更できます。終了時には右上の「完了」を選択してください。

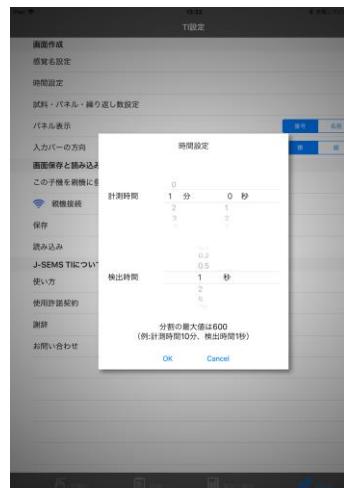


iv) 感覚名を編集

編集したい感覚名をタップするとカーソルが当該位置に移動し入力ができる状態になります。感覚名を入力してください。

2 – 2) 時間設定

試験をおこなう時間（計測時間）と検出時間（測定間隔）を設定します。測定の最大回数は 600 回です。例えば、1 秒間隔で測定を行う場合、最大 600 秒間計測を行うことができます。なお、検出回数が 10 回以上できる設定としてください。検出回数が 10 回以下の場合には設定できません。



2-3) 試料・パネル・繰り返し設定

感覚、試料の数、パネルの数、繰り返しの数を設定します。

なお、検査開始後に、始めに設定した試料、パネル数、繰り返し数を増やす必要が生じた場合は、この試料・パネル・くり返し設定画面に戻って、それらの数を増やし、同じ検査名で上書き保存してから、その検査名を読み込み、実施してください。



2-4) パネル表示

パネルの表示を番号か名前かを設定します。

番号の時は番号を、名前の時は名前をタップします。

名前がタップされるとパネル名設定が表示されます。

パネル名設定をタップと名前設定画面が表示されます。

画面の右上の編集をタップすると名前編集画面になります。

a) 名前の登録と編集

左上の「+」を押すと、 \ominus ボタンが画面に表示され、名前を追加することができます。

当該行 \ominus と \equiv を除く任意の位置をタップするとキーボード画面が表示され名前が入力できます。

b) 名前を削除

名前設定画面を表示して \ominus ボタンをタップすると、「削除」ボタンが表示されます。

削除ボタンをタップすると削除確認のメッセージが

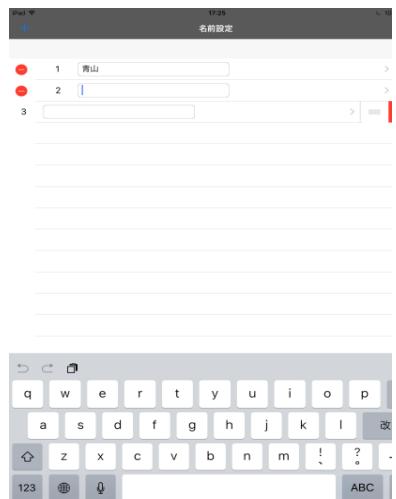
表示されます。「はい」をタップすると削除されます。「いいえ」

は削除されません。

c) 名前を移動

移動したい名前の右側の「 \equiv 」を選択し、上下にドラックすると、名前の順番を変更できます。

終了時には右上の「完了」をタップしてください。



2-5) 入力バーの方向

- バー方向を横か縦設定します。

2. TI 検査実施

TI は以下の手順で実施します。

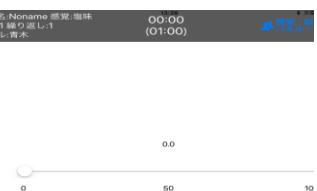
a) 試料・パネル・繰り返し選択

ホーム画面下の TI 実行アイコンをタップし、画面右上の 感覚・試料・パネル・繰り返しをタップします。表示された画面で、これから実施する TI の感覚、試料番号、パネル番号あるいはパネル名、繰り返し（何回目か）を選択します。



b) 検査実施

画面下の「開始」をタップし、TI の検査を開始します。設定した感覚の強度を画面のスライダで入力します。検査を中止する場合は、「中止」を、検査時間到達前に終了する場合は、「終了」を選択します。

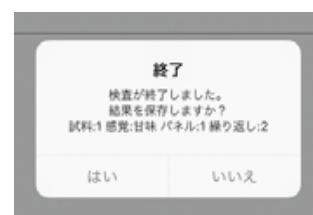


c) 保存

検査終了時に以下の画面が表示されます。「はい」を選択すると、検査結果が iPAD に保存されます。

既に保存されているデータファイルとパネル（番号あるいは名前）、試料名、繰り返し番号が同じデータは上書きされます。

「いいえ」を選択すると結果は保存されません



3. 検査結果の表示

1) TI 検査の一覧表示

ホーム画面の「TI 結果」アイコンをタップすると

TI 検査一覧が表示されます。



2) 結果の一覧表示

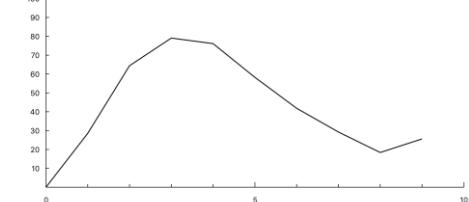
検査名をタップすると当該検査の結果一覧が表示されます。



3) 詳細結果の表示

表示された結果一覧表の当該検査結果をタップすると
検査の結果をグラフで表示します。

縦軸は、ボタンの位置（入力された感覚の強度）、
横軸は時間を表します。



TDS法、TI法については、書籍

「製品開発に役立つ感性・官能評価データ解析 -R を利用して-」ISBN978-4-9907809-1-3 で解説しています。